

大都会で有名人を相手に活躍する人の中に、ふるさとのために時間と労力を注ぎ、未来を担う子どもたちを気遣う人がどれほどいるだろうか。佐世保出身の放送作家、海老原靖芳さん(57)に出会い、ふと考えた。

ふるさとへの思いに共感

昨年暮れ、そんな親友たちに「佐世保のために何かして」と頼まれ「佐世保かつちえて落語会実行委」を設立した。「地元ならではのことを」という思いから、落語をやってみたい県内の子どもたちを募り、オリジナルの台本を執筆し、指導にも当



永尾 藍 (佐世保支社)

たった。当初は「冬の間だけ」と予定していた滞在日数を大幅に延ばし、佐世保を盛り上げようと動いていた姿が印象深い。取材の折には「佐世保の子どもたちの応援をよろしくお願いしますね」という言葉を掛けてもらった。海老原さんから頂いた丁寧な便りにも、そのようにしたためである。大人の風格と説得力、そして、ふるさとへの感謝の念を強く感じる。私も頑張らなきゃ、と励まされている。